

優秀賞 [大学生の部]

開発途上国の女性を取り巻く問題を広い視野で分析。その解決のために、女性教育、特に機能的識字教育が必要であるという主張に、審査委員が共感しました。

NRI学生小論文コンテスト2013
世界に向けて未来を提案しよう!
あなたが考える「わくわく社会」を
描いてください
入賞作品

開発途上国における女性教育

三重大学 人文学部 法律経済学科3年

今井 愛美 いまい まなみ



1. はじめに

「わくわく」とは、不確定な未来に関して自分が自由に想像し、抱く好感情である。よって、私は「わくわく社会」とは、だれもが自由に自分の未来について決定できる社会だと考える。また、1990年に国連開発計画（UNDP）が「持続可能な人間開発」を発表した。この開発の目的は、「一人一人の人間が、自らの意思に基づいて人生の選択と機会の幅を拡大させ、生産的かつ創造的な人生を開拓できるような環境をつくること」である。

しかし現在においてなお、開発途上国を中心に人身売買や売春等の特に女性を被害

者とする問題が多く存在し、女性が自分の意思に基づいて人生を開拓できる機会は少ない。これらの問題の原因としては貧困等さまざまなものが考えられるが、そのすべてに通じているのが女性に対する教育の不足である。UNICEFによると、東南アジア等の女子教育に投資してきた地域は経済開発の水準が一層高くなる傾向を示しており、また女子の初等教育就学率が上がるにつれて1人あたりの国内総生産が増えることも判明している。

そこで、本論文では「女性にとっての」わくわく社会」の創造に必要なものとして女性教育を取り上げ、特に開発途上国における教育内容について提言する。

2. 開発途上国における現状と対策

自分は現在、日本に生まれ育った女性として自分の人生について考えることができる。そうでなくても、多くの日本女性は教育の機会を得たことで戦前のように家族のために犠牲になるということからは解放されている。しかし、日本においてもまだ女性の高等教育に関する偏見は少なくなく、男性と比べ、改善されるべき点はある。実際に、私は現在、大学3年生として大学卒業後の進路について考え、大学院への進学を希望しているが、周囲

から「大学院へ進学して就職すると、婚期が遅れて出産が難しくなる」等の心無い言葉を受けることも少なくない。

しかし、海外へ目を向けると、日本の状況にすら達していない国がある。最近では、パキスタンのマララさんのように、女性が教育を受ける機会を求めただけで銃弾の被害に遭うという信じがたい状況にある国もある。それでは、世界的に見て女性の教育状況はどのようになっているのか。

以下の表1によれば、現在、世界の各地域における男性に対する成人女性の識字率は、東アジアを除くアジアやサハラ以南のア

表1 世界各地域の女性に関する諸統計

	成人の識字率 (対男性比、%) 2007-2011	5歳未満児の 死亡率* 2011	避妊法の 普及率 (%) 2007-2012	HIVと共に 生きる女性 (1,000人) 2011	HIVと共に 生きる子ども (1,000人) 2011
サハラ以南の アフリカ	76	109	24	11,800	3,100
中央と 北アフリカ	82	36	48	74	32
南アジア	69	62	52	890	110
東アジアと 太平洋諸国	94	20	64**	720	64
ラテンアメリカと カリブ海	98	19	-	540	58
CEE/CIS	98	21	73	410	18
後発開発途上国	76	98	35	5,000	1,600

* 出生1,000人あたりの死亡数

** 中国を除く

UNICEF「世界子供白書2013」 pp.98-103、112-115、128-131より著者作成

フリカ地域は70～80%前後であり、その他の地域では90%以上である。つまり、教育機会が男女ともに平等に与えられている日本では想像しがたいことであるが、開発途上国の、中でも特に後発開発途上国における女性の識字率が低いことが判明する。これは、開発途上国のほとんどのコミュニティ、特に農村部では、女子は幼い時期から家事や仕事をするようになるからである。これらの仕事はやがて日課となり、一日の大半を占めるようになると、もはやそこに学校へ行くことは組み込めない。そのため、結果として女性の識字率は男性と比べ低くなってしまふ。さらに、各地域の識字率は避妊法の普及率や女性および子どものHIV感染数と比例し、また、5歳未満児の死亡率とは反比例関係にあることから、女性の識字率は女性自身だけでなく子どもにも大きな影響を与えたと考えられる。そこで、以下では女性の低識字率が女性個人および子どもたちへ与える影響とその背景を考察する。

まず、女性個人に対する問題としては、人身売買や売春等の、女性自身が商品として扱われることが挙げられる。人身売買が発生する流れとしては、貧困が理由で仕事を探す女性に対し、人身売買業者が豊かな国（または地域）への出稼ぎを勧める。その際、出稼ぎの内容としては工場作業等が示されるため、女性たちは出稼ぎを決意するのだが、実際には知らないうちに人身売買の商品

として売られてしまい、その後も女性を買い受けた雇い主等にパスポートを奪われ、母国への帰国が不可能なまま過酷な状況での売春等の労働を強いられる、というようなことが女性本人の同意なく行われることが少なくない。特に女性は、観光地等での観光産業の中でセックスワーカーとして働かされ、性感染症への感染や希望しない妊娠等の二次被害に遭ってしまう点だが、男性が人身売買の対象となる場合よりもさらに深刻な問題となっている。ホワイトリボンによると、人身売買のブローカーは、親戚ないし親戚を名乗る男や慕っていた知人であることが多く、それゆえ女性が容易に出稼ぎを決意しやすいという状況がある。そして、被害女性のほとんどは仕事以外の時間帯は雇用者によって厳しく監視されており、また、移住労働者センター等の助けを求めるべき公的機関の存在を知らないため、女性は雇用者や客等の周囲の人間以外には助けを求めることができず、一人で脱出することは困難となる。しかし、女性が教育を受けることで、外国で働くことの危険性や、生活地域で行うことができる仕事についての知識・技能を有していれば、このような問題の発生は防止できるのではないか。

さらに、女性の識字率は女性自身だけでなく、その子どもにも大きな影響を与える。その影響については、二点挙げることができる。

第一が、子どもの死亡率との関係である。成人女性の識字率と5歳未満児の死亡率と

の相関関係について、ネパールの「プライマリーヘルスケアプロジェクト」を例に考えてみる。「プライマリーヘルスケアプロジェクト」では、日本の医療システムの良い点をネパールに定着させたいと考えた。そこで、対象地域の保健所を訪れる母子に母子手帳を配布し、次回以降も検診に持参するように指導を行った。しかし、こうした取り組みにもかかわらず、母子手帳は活用されなかった。これは、母親の識字率が低く、母子手帳が「読めない」ためであった。よって、5歳未満児の死亡率には、家庭の貧困等の環境的な問題に加え、母親自身の非識字により、公共サービスの利用ができないことが影響していると考えられる。

第二が、子どものHIV感染数との関係である。HIV／エイズ予防ワクチンが存在しない以上、社会にとって教育が最大の防御となると、UNICEFは述べている。例えば、ザンビアで15～19歳の年齢層を対象に行われた研究によると、1990年代、教育を受けた女性の間ではHIV感染率がほぼ半減したものの、正式な学校教育を受けていない女性の間ではほとんど減少が見られなかった。よって、子どものHIV感染数についても多くが母子感染であることを踏まえると、女性に対し適切な性感染症に関する教育がなされれば、おのずと子どもに関しても改善が期待できる。

以上のように、開発途上国の女性を取り

巻く問題は、女性教育の不足により非識字であることが大きな原因となっている。したがって、上記の問題を解決するためには、現在非識字の状態にあるすべての女性が教育を受け、非識字を克服し、育児や性感染症等に関して正しい知識を獲得することが必要である。

3. 女性教育に関する世界の取り組み

以上のような現状を受け、近年さまざまな国際組織や民間団体により女性教育が行われている。以下では、同じアジア地域に属しながら識字率に大きく差のあるタイとパキスタンを例に挙げ、各国でどのような取り組みが行われているか検討していく。

例えば、タイ北部の国境付近では、「娘たちの教育プロジェクト」として、ボランティアの人々が人身売買の対象となる可能性の高い娘たちを集め、最低限の読み書きができるよう教育を施している。これは、村長、僧侶、先生までが人身売買に手を貸している地域において、タイ国籍が無いことや貧困のために学校へ行けない無知な若い女性が人身売買の被害に遭っているという問題を解決するための一つの対策である。このプロジェクトにより、当初は父親等の言いなりになっていた少女たちが次第に自信をつけるようになった。

それと同時に、自分の人生を自分で決めて行動するために、女性が父親等に対してもの言うようになったという。このように、女性教育は知識の獲得だけでなく女性の意識向上にもつながる。

また、愛知淑徳大学の國信名誉教授によると、パキスタンの農村社会で女性に対して成人学習プログラムを実施することとなった当初、地域の女性から「忙しくて時間がない」「学習して何の得があるのかわからない」等の回答が寄せられた。このような女性たちが意欲を持って主体的に参加する学習内容でなければ、学習は持続せず意味を持たない。そこで、実際に行われたプログラムでは、地域の女性と協力して作成したテキストを用いて学習が行われた。テキスト内容は「自分は誰?」からはじまり、女性と法律、羊の種類分け、有機農業等、すぐに役に立つもので、女性たちにも好評であったという。一般に「女性教育」というと「識字教育」と考えられがちである。しかし、実際に女性を取り巻く問題の解決を目標とするのであれば、単なる識字教育だけでなく、その先の女性の生活に密着し、即時に役立つ知識（以降、機能的識字能力という）まで含んだ教育がなされなければならない。

以上の二つの事例より、識字教育によって女性は自分に自信を持つことができると期待できる。また、識字教育とともに機能的識字教育を実施することで、当事者である女性自

身の教育に対するモチベーションを高めることができる。

4. 女性教育の拡充

これまでの点を踏まえ、今後、世界各国の女性が教育を身に付けるようになるためには、以下の二点が重要であると考ええる。

一点目は、非識字の克服である。女性がどんな職種や知識の習得を希望するにしろ、最低限度の読み書きは必要であり、また、識字可能となることで賃金の増加も期待できる。さらに、先に述べたタイ北部の事例のように、非識字を克服することで女性が自分に自信を持ち、男性等に対して自らの意見を自由に述べるようになる。教育を受け、自分の意思を持つ女性は、自らの子に対しても少しでも幸福になってもらいたい、そのために子どもに教育を受けさせ、賃金の良い仕事を得て貧困から脱出してもらいたいと考える可能性が高い。このように女性の意識が高まり教育の重要性を理解してもらえれば、女性だけでなく、その後の子どもたちに対しても就学が推進されることが期待できる。こうして親から子へ教育による利益が継承され倍化することで、世代を超えた前向きな影響を社会全体へ及ぼすことができる。

そして二点目は、機能的識字能力の獲得である。この段階については、衛生知識に

関しては医療関係者、女性の権利に関しては法律家等、各分野の専門家に指導を行ってもらうことで、より正確で各地域に即した知識の獲得を目指す。特に、人身売買等については問題をより身近に感じてもらうために、実際に女性を売りさばいた経験を持つブローカー等から体験談を聞くことも重要である。

このように、女性教育の最終的な目標を、非識字の克服だけで満足せず、機能的識字能力の獲得までとすることで、女性に教育を受けることの重要性を理解してもらい、より多くの女性に主体的に学習に臨んでもらうことができる。そして、女性教育は、女性の地位向上だけでなく、乳幼児の深刻な死亡率の低減をはじめとする生活環境の改善も期待できる。

5. おわりに

本論文では、女性の識字率と女性や子どもを取り巻く人身売買等の問題との関係を考察し、女性教育の重要性を述べた。そして、現在世界で行われている女性教育に関するタイやパキスタンでの取り組みを踏まえて、今後開発途上国で必要な女性教育の内容の在り方として、女性が教育の重要性を感じ、より主体的に学習に取り組んでもらうためには、非識字の克服だけでなく機能的識字能力の獲得が必要不可欠であることを提言した。こ

れまで続けられてきた負の連鎖を断ち切り、男性だけでなく女性にとっても将来へ希望が持てる社会こそ、今後必要な「わくわく社会」であると考えている。

参考文献

- ・大崎麻子『女の子の幸福論 もっと輝く、明日からの生き方』講談社、2013年
- ・松井やより『女たちがつくるアジア』岩波書店、1996年
- ・榎原洋一「7章 アジア・アフリカにおける子どもの病気と親の衛生意識の格差」(内田伸子、浜野隆編『お茶の水女子大学グローバルCOEプログラム 格差センシティブな人間発達科学の創成 2巻』)
- ・國信潤子「参加型・機能的識字学習と女性の自立—パキスタンの場合—」『国立女性教育会館研究紀要』第9号、2005年
- ・UNICEF『世界子供白書2004』『世界子供白書2013』
- ・NPO法人てのひら・人身売買に立ち向かう会HP
<http://www.think-trafficking-project.com/>
(最終閲覧日：2013年8月29日)
- ・ホワイトリボン 活動レポート「人身売買の被害にあった3人の女性の体験談～IPPFネパール視察レポート」(2013年3月28日)
<http://whiteribbon.excite.co.jp/report/0326-4.html>
(最終閲覧日：2013年9月3日)